

傳葉田舎原氏

在八

特 別

^13

4274

28



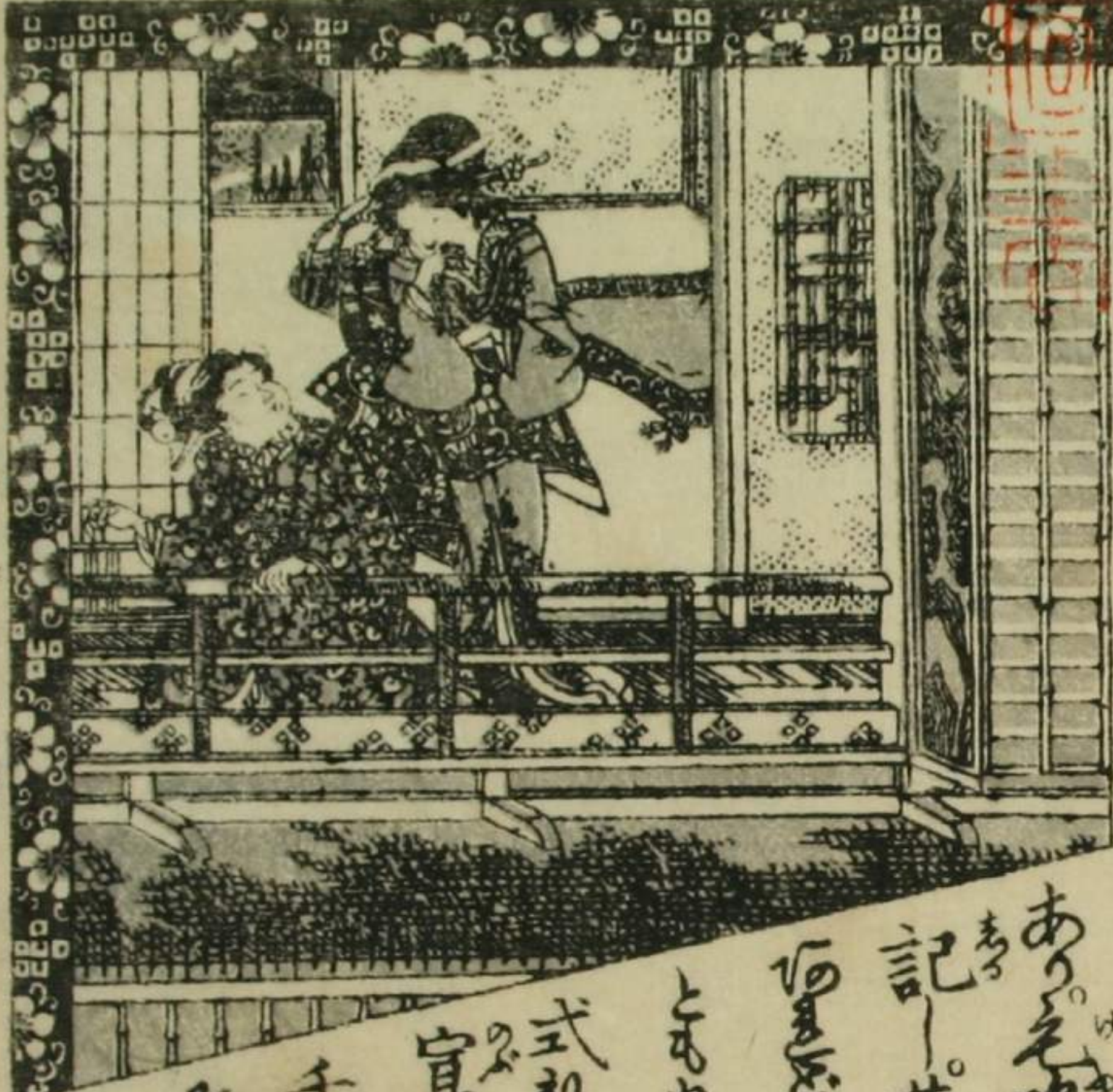


壺
案

田
舎

壺
案

廿八編上



倭紫田舎源氏第廿八編
或人曰 昭の文笑まゝの時鳥

此句江州日吉の宮歌仙の額に捨と
あり毛筆古百人一乃小光貞の室中
記。其角が兄才赤右鬼の妻と
いふ人も。貝原の捨を知りて赤右婦の
と小光貞も妻の名のいふ者あり。紫
式部ハ三歳兒も知りて是又妻の
宣孝とハ書を讀む者ハ知とハ
千人子持の鬼子母神子の母男ハ
その妻へ頼とくべとをむるれとハ
學者の名とハ不知室の愚

倭紫

田舎源氏

上冊

第廿八編

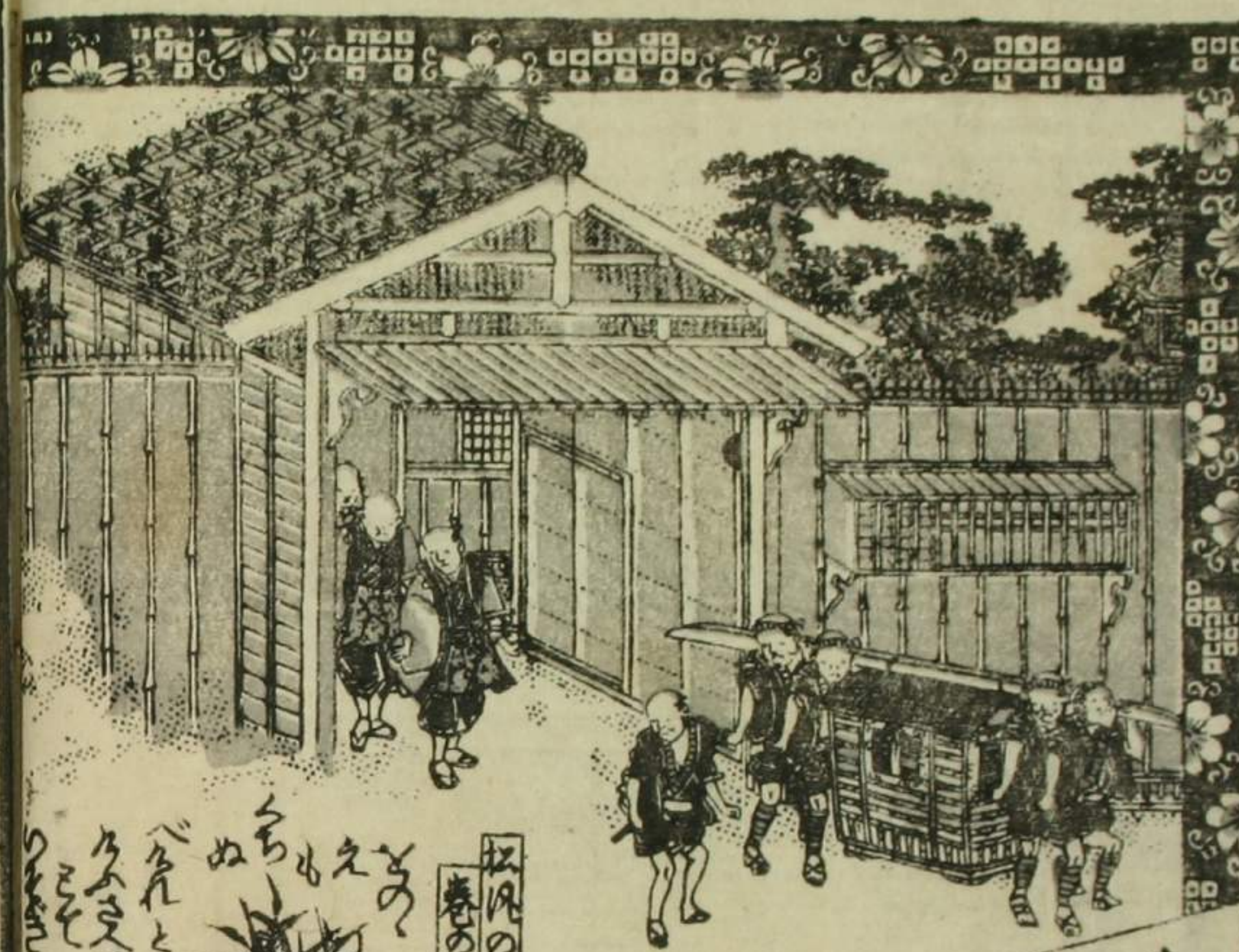
種彦作
國貞画

鶴屋
板





せんぎの
 色あひまど
 ちよめん
 中略
 のありか
 あわめ
 さびあ
 りあ



松風の
 巻の詞
 ぬもえ
 ぬれと
 久ま
 こ

源氏廿八巻

天保戊戌春
 曾十八帖至拾九帖

柳亭種

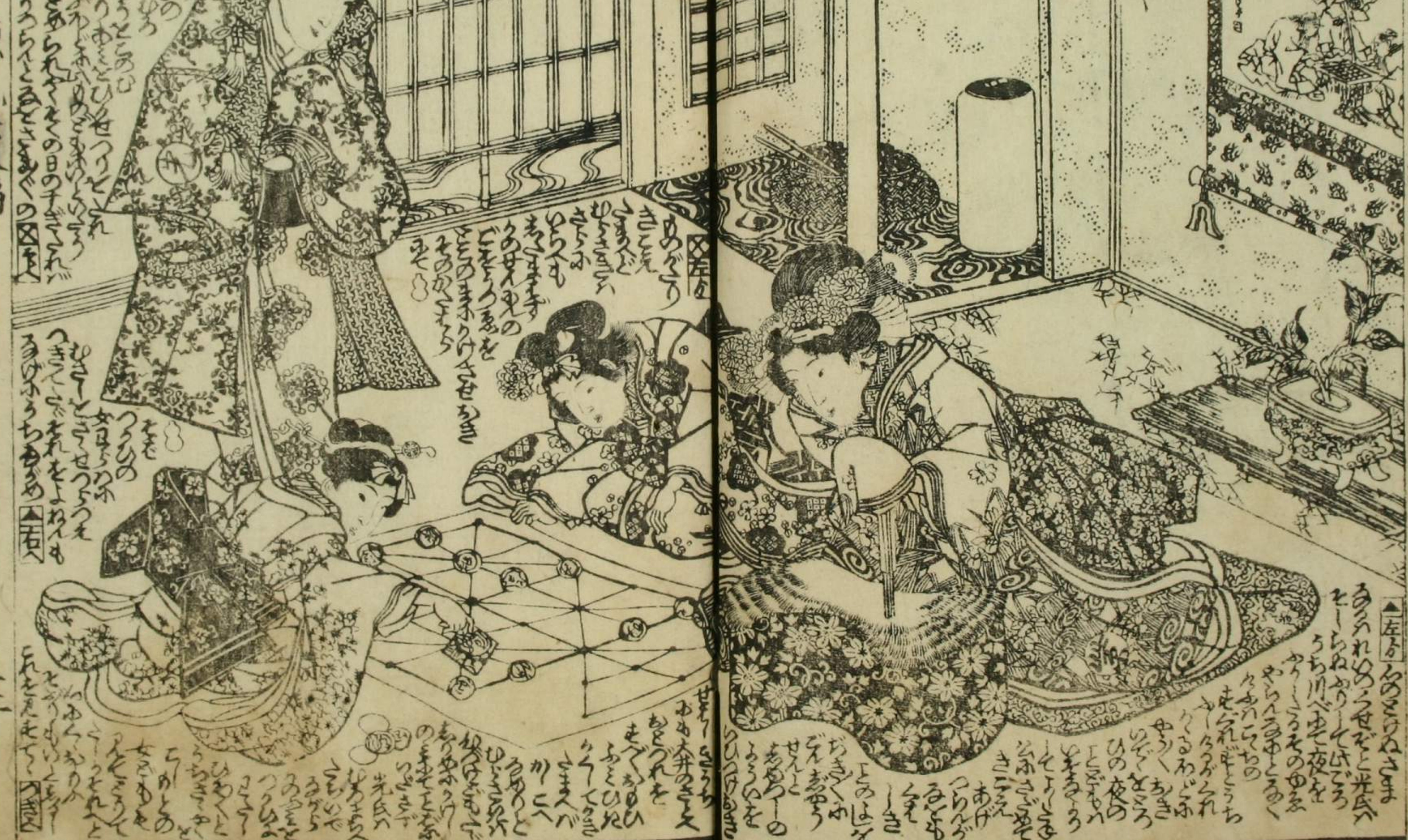


あそをれまのたをん
 理り知移はひあふの毛
 鬼子母神あふ多二階
 雑司谷吾修紫樓も観音の
 化財の利益あふてこそめくす
 人中も知れぬま宣孝めあ佛と
 かづきほえんとおもひあらる

光氏の大井の中を
あそびたれしさま
さうへりきま
りたるは
ゆね吉やゆねの
らゆねとんせえち
さゆねとんせえち
ゆねのゆねの
さゆねとんせえち
ゆねのゆねの
さゆねとんせえち

ゆねのゆねの
さゆねとんせえち
ゆねのゆねの
さゆねとんせえち
ゆねのゆねの
さゆねとんせえち
ゆねのゆねの
さゆねとんせえち

ゆねのゆねの
さゆねとんせえち
ゆねのゆねの
さゆねとんせえち
ゆねのゆねの
さゆねとんせえち
ゆねのゆねの
さゆねとんせえち



ゆねのゆねの
さゆねとんせえち
ゆねのゆねの
さゆねとんせえち
ゆねのゆねの
さゆねとんせえち
ゆねのゆねの
さゆねとんせえち

ゆねのゆねの
さゆねとんせえち
ゆねのゆねの
さゆねとんせえち
ゆねのゆねの
さゆねとんせえち
ゆねのゆねの
さゆねとんせえち

ゆねのゆねの
さゆねとんせえち
ゆねのゆねの
さゆねとんせえち
ゆねのゆねの
さゆねとんせえち
ゆねのゆねの
さゆねとんせえち

先良の
まじりて
うら



あまの
うら
あまの
うら
あまの
うら

あまの
うら
あまの
うら
あまの
うら



あまの
うら
あまの
うら
あまの
うら

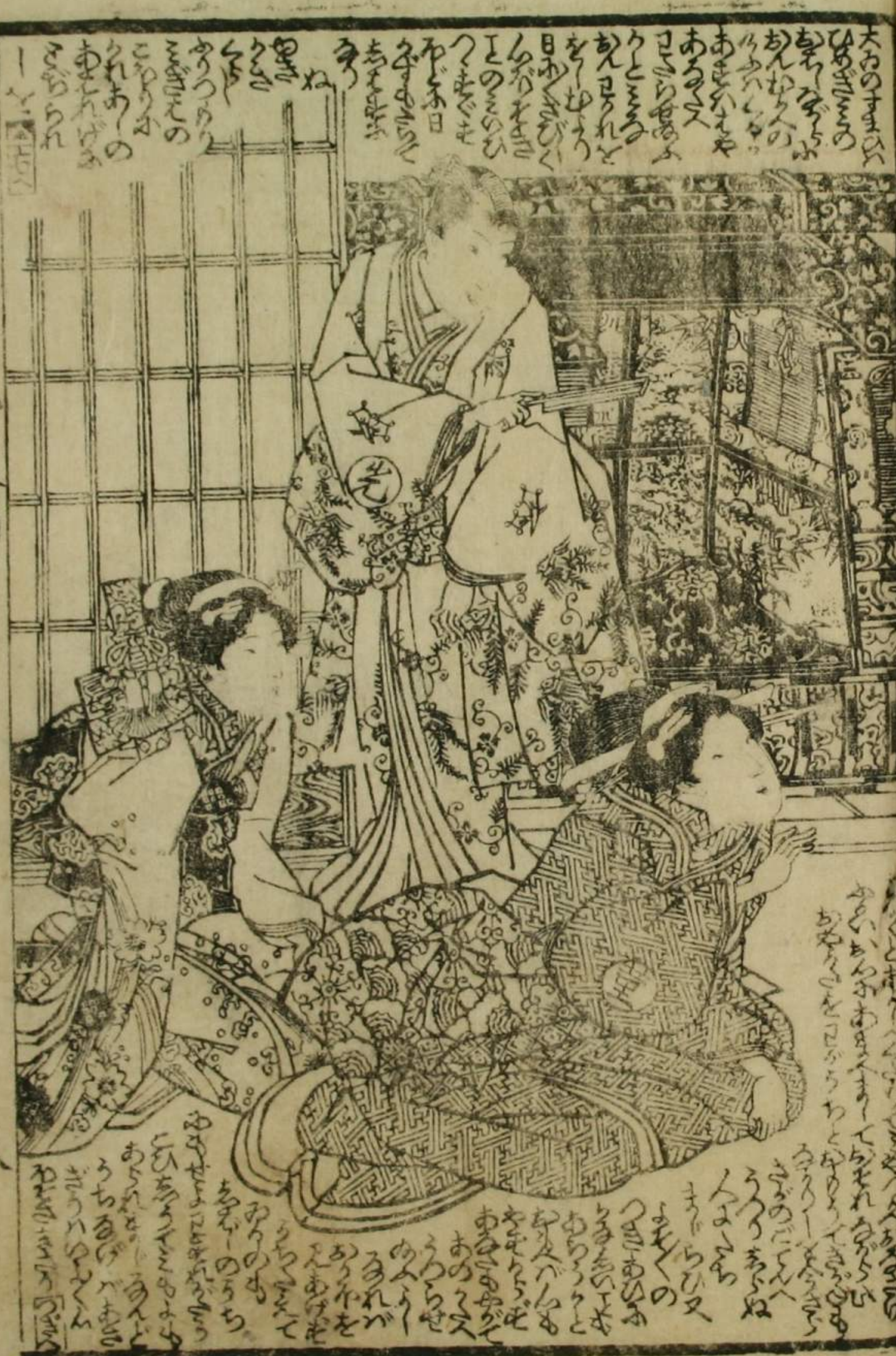
あまの
うら
あまの
うら
あまの
うら



源氏廿八編



源氏廿八編



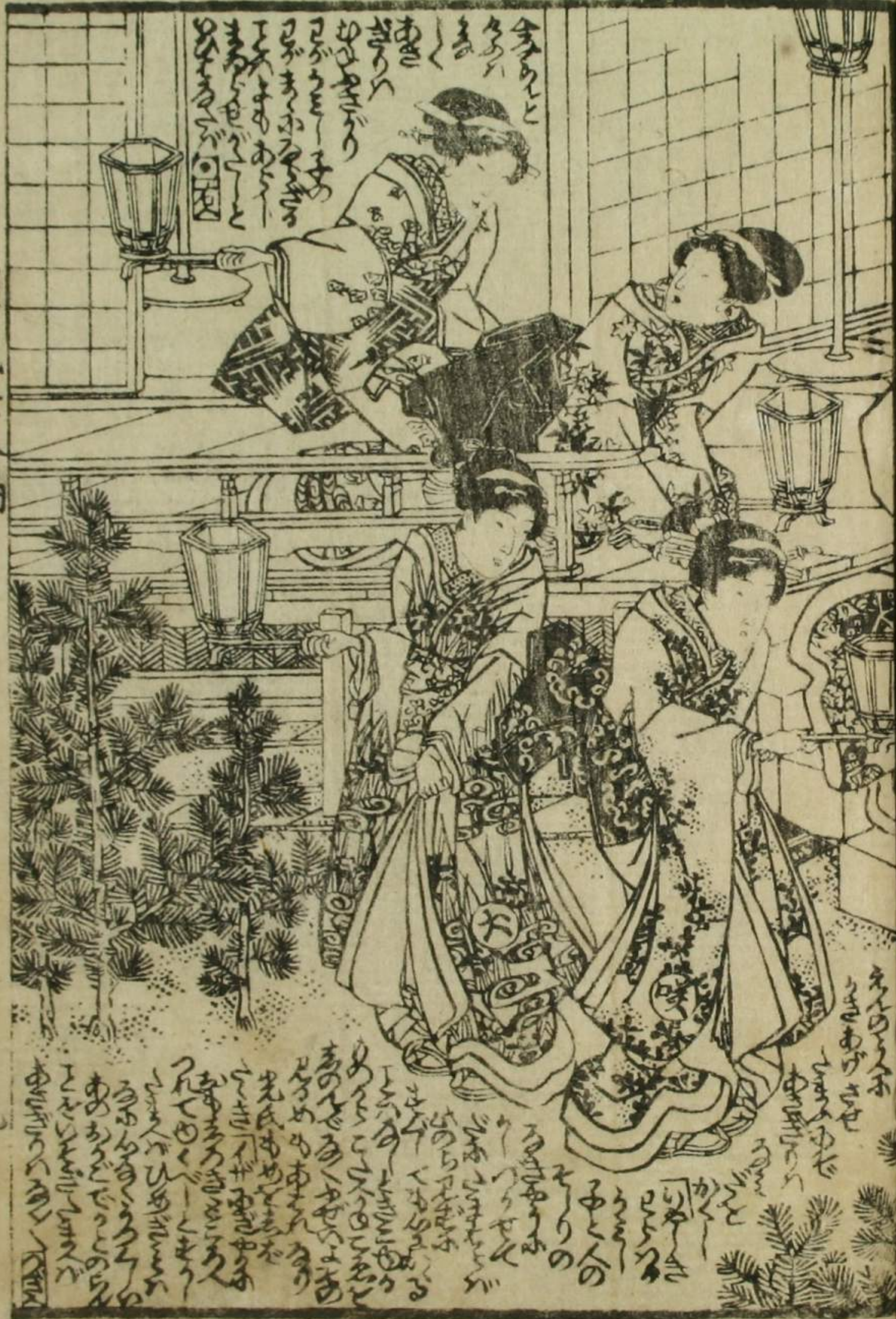
卷之七

山崎八郎

左

上
 一の
 二の
 三の
 四の
 五の
 六の
 七の
 八の
 九の
 十の
 十一の
 十二の
 十三の
 十四の
 十五の
 十六の
 十七の
 十八の
 十九の
 二十の
 二十一の
 二十二の
 二十三の
 二十四の
 二十五の
 二十六の
 二十七の
 二十八の
 二十九の
 三十の
 三十一の
 三十二の
 三十三の
 三十四の
 三十五の
 三十六の
 三十七の
 三十八の
 三十九の
 四十の
 四十一の
 四十二の
 四十三の
 四十四の
 四十五の
 四十六の
 四十七の
 四十八の
 四十九の
 五十の
 五十一の
 五十二の
 五十三の
 五十四の
 五十五の
 五十六の
 五十七の
 五十八の
 五十九の
 六十の
 六十一の
 六十二の
 六十三の
 六十四の
 六十五の
 六十六の
 六十七の
 六十八の
 六十九の
 七十の
 七十一の
 七十二の
 七十三の
 七十四の
 七十五の
 七十六の
 七十七の
 七十八の
 七十九の
 八十の
 八十一の
 八十二の
 八十三の
 八十四の
 八十五の
 八十六の
 八十七の
 八十八の
 八十九の
 九十の
 九十一の
 九十二の
 九十三の
 九十四の
 九十五の
 九十六の
 九十七の
 九十八の
 九十九の
 百の

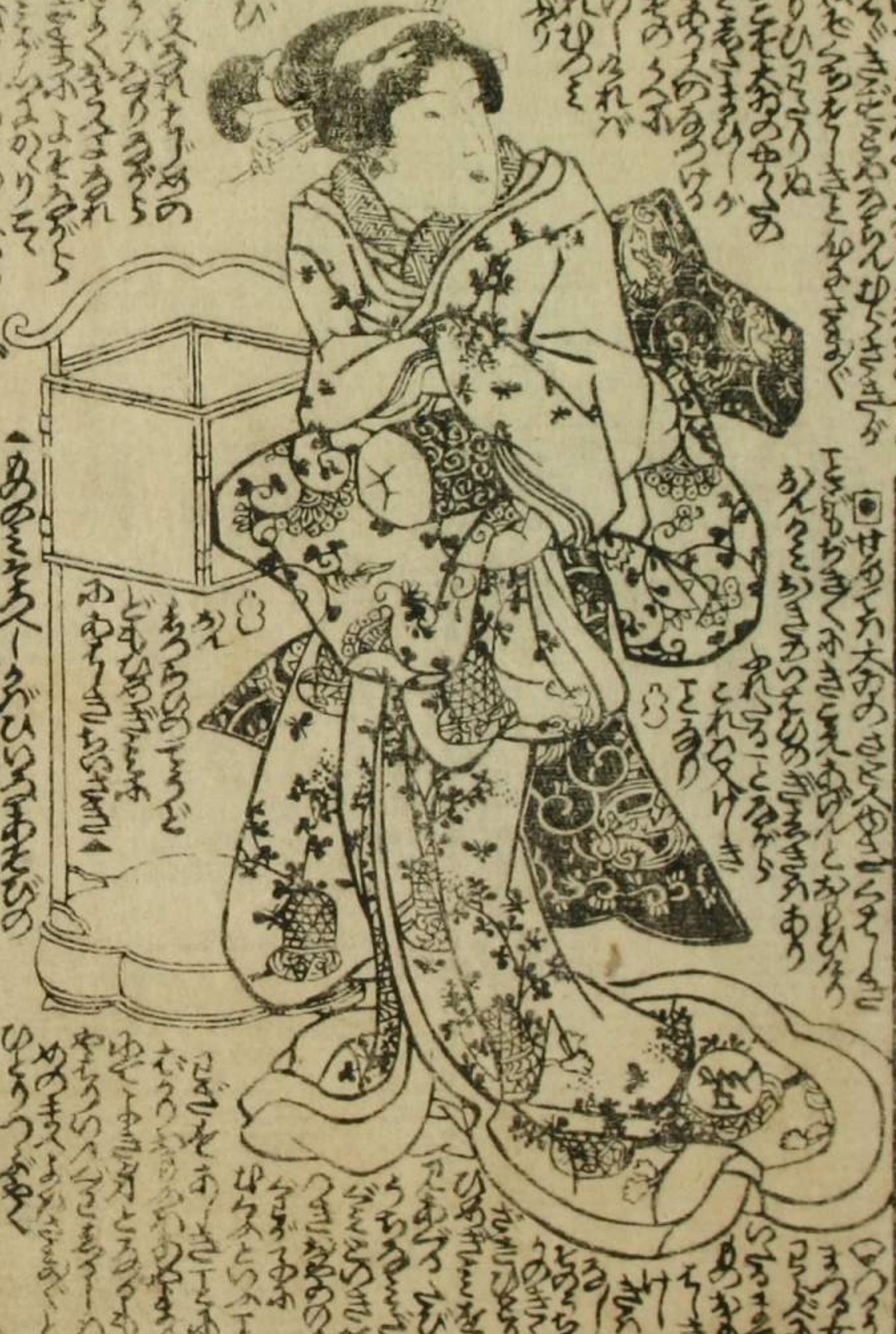
大の
 一の
 二の
 三の
 四の
 五の
 六の
 七の
 八の
 九の
 十の
 十一の
 十二の
 十三の
 十四の
 十五の
 十六の
 十七の
 十八の
 十九の
 二十の
 二十一の
 二十二の
 二十三の
 二十四の
 二十五の
 二十六の
 二十七の
 二十八の
 二十九の
 三十の
 三十一の
 三十二の
 三十三の
 三十四の
 三十五の
 三十六の
 三十七の
 三十八の
 三十九の
 四十の
 四十一の
 四十二の
 四十三の
 四十四の
 四十五の
 四十六の
 四十七の
 四十八の
 四十九の
 五十の
 五十一の
 五十二の
 五十三の
 五十四の
 五十五の
 五十六の
 五十七の
 五十八の
 五十九の
 六十の
 六十一の
 六十二の
 六十三の
 六十四の
 六十五の
 六十六の
 六十七の
 六十八の
 六十九の
 七十の
 七十一の
 七十二の
 七十三の
 七十四の
 七十五の
 七十六の
 七十七の
 七十八の
 七十九の
 八十の
 八十一の
 八十二の
 八十三の
 八十四の
 八十五の
 八十六の
 八十七の
 八十八の
 八十九の
 九十の
 九十一の
 九十二の
 九十三の
 九十四の
 九十五の
 九十六の
 九十七の
 九十八の
 九十九の
 百の



茶室の図

國貞画種彦作

此の書は、古今東西の名家の画を、種彦の筆で写し、國貞の画に似せしめたものである。其の筆致は、國貞の如く、簡潔で、力強い。其の画は、人物、山水、花鳥、さまざまあり、其の妙は、筆の運び、墨の濃淡、線の曲直、に在り。其の画は、見る者に、一種の感動を與へ、其の心を、その中に没せしめしむるものあり。其の画は、古今東西の名家の画を、種彦の筆で写し、國貞の画に似せしめたものである。其の筆致は、國貞の如く、簡潔で、力強い。其の画は、人物、山水、花鳥、さまざまあり、其の妙は、筆の運び、墨の濃淡、線の曲直、に在り。其の画は、見る者に、一種の感動を與へ、其の心を、その中に没せしめしむるものあり。



東都木園宗匠校輯

俳諧芳艸集 全三冊

俳諧叢蘭集 全二冊

東都木園宗匠校輯

俳諧今人附合集 全四冊

新刊板

俳諧今四歌仙全冊
梅室木園宗匠校輯
今四歌仙の俳諧の流り

田舎源氏笈箱かよひ
上仕立

此の書は、田舎源氏の笈箱かよひの物語を、上仕立の體で、種彦の筆で写したものである。其の物語は、田舎源氏の笈箱かよひの物語を、上仕立の體で、種彦の筆で写したものである。其の物語は、田舎源氏の笈箱かよひの物語を、上仕立の體で、種彦の筆で写したものである。

俳諧今人附合集
俳同輯
俳諧今人附合集
俳同輯

俳諧今人附合集
俳同輯

俳諧今人附合集
俳同輯

俳諧今人附合集
俳同輯

俳諧今人附合集
俳同輯

江戸御曆開板所

鶴屋喜右衛門

俳諧今人附合集
俳同輯

俳諧今人附合集
俳同輯

俳諧今人附合集
俳同輯

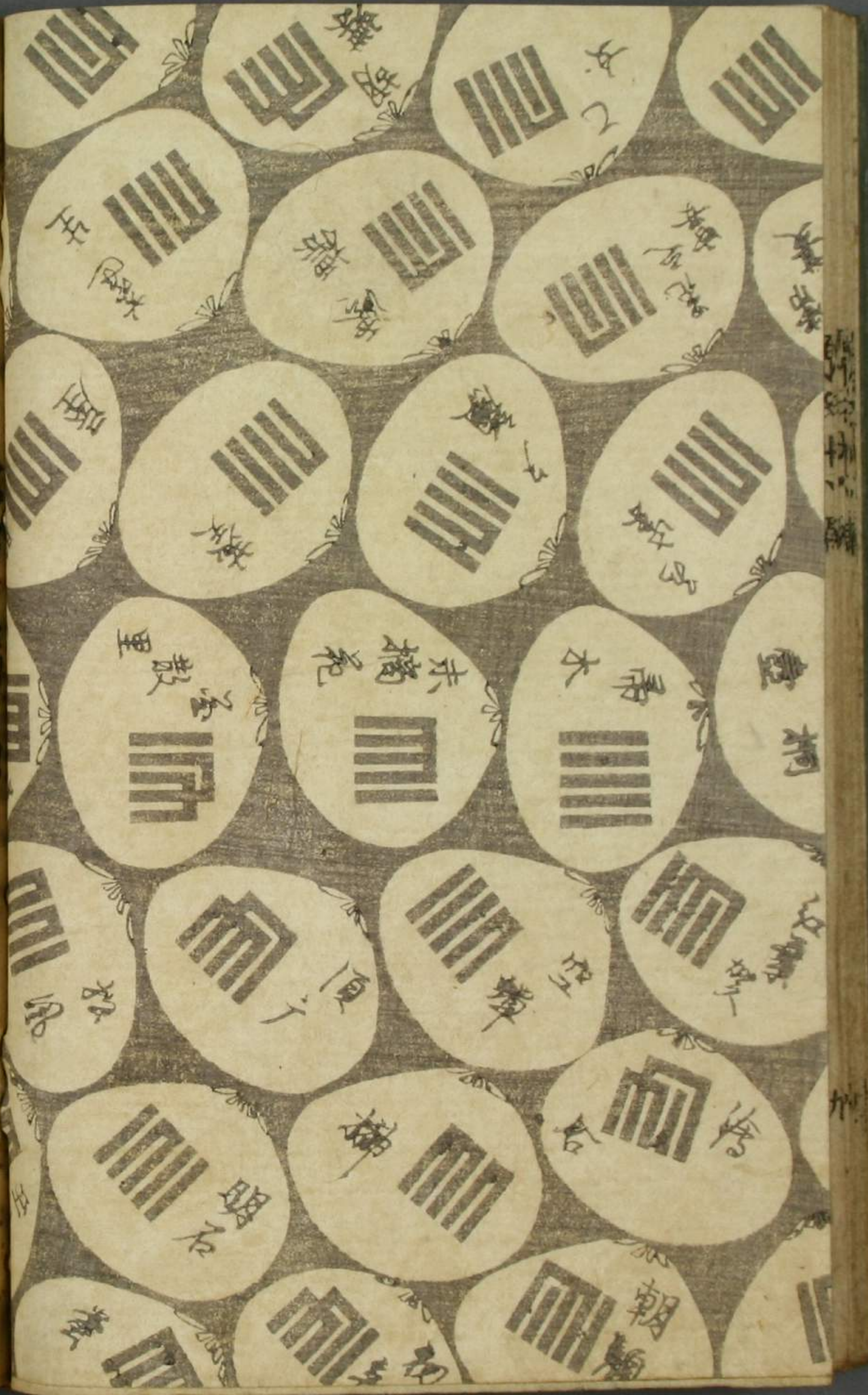
俳諧今人附合集
俳同輯

光八編下



梅の香に
花の影に
月影に
雪の影に

光八編下
下
下
下
下



光氏はも
 いぬの
 つれ
 ささ
 むす
 うさ
 らい
 ろん
 光氏

左の
 ひら
 り
 と
 光氏

光氏
 光氏
 光氏

光氏
 光氏
 光氏

光氏
 光氏

光氏
 光氏



ついでにのかりとも有り
その人のおそくふたしてしと
それによつてさかえをふり
としおしるはく人あや
り光氏をさしおして

よらうのよとまきさのり
かゆるり面おもは
あつていよと共
よらうのよとま

その年らうさうさうが
びき日のひかり月のうら
まのうらうらうらう
たのうらうらうらう
のうらうらうらう

とひさきわとらうらう
ありわれと井のありわ
さうらうらうらうらう
やうらうらうらうらう
うらうらうらうらうら
やのうらうらうらうら
あつていよと共
らうらうらうらうら
あつていよと共
らうらうらうらうら
あつていよと共



その年らうさうさうが
びき日のひかり月のうら
まのうらうらうらう
たのうらうらうらう
のうらうらうらう

その年らうさうさうが
びき日のひかり月のうら
まのうらうらうらう
たのうらうらうらう
のうらうらうらう

その年らうさうさうが
びき日のひかり月のうら
まのうらうらうらう
たのうらうらうらう
のうらうらうらう

その年らうさうさうが
びき日のひかり月のうら
まのうらうらうらう
たのうらうらうらう
のうらうらうらう

その年らうさうさうが
びき日のひかり月のうら
まのうらうらうらう
たのうらうらうらう
のうらうらうらう

左の三か所のものを
 もれしゝるゝことと
 ひれやいゝと
 なられしゝるゝことと
 むしろしゝるゝことと
 あつゝいゝと
 ことと
 ことと
 ことと



左の三か所のものを
 もれしゝるゝことと
 ひれやいゝと
 なられしゝるゝことと
 むしろしゝるゝことと
 あつゝいゝと
 ことと
 ことと
 ことと

左の三か所のものを
 もれしゝるゝことと
 ひれやいゝと
 なられしゝるゝことと
 むしろしゝるゝことと
 あつゝいゝと
 ことと
 ことと
 ことと



左の三か所のものを
 もれしゝるゝことと
 ひれやいゝと
 なられしゝるゝことと
 むしろしゝるゝことと
 あつゝいゝと
 ことと
 ことと
 ことと

つぎ下りいさかおのち
いさかおのちいさかおのち
いさかおのちいさかおのち
いさかおのちいさかおのち
いさかおのちいさかおのち
いさかおのちいさかおのち
いさかおのちいさかおのち
いさかおのちいさかおのち
いさかおのちいさかおのち
いさかおのちいさかおのち



光氏ハ
光氏ハ
光氏ハ
光氏ハ
光氏ハ
光氏ハ
光氏ハ
光氏ハ
光氏ハ
光氏ハ
光氏ハ

光氏ハ
光氏ハ
光氏ハ
光氏ハ
光氏ハ
光氏ハ
光氏ハ
光氏ハ
光氏ハ
光氏ハ
光氏ハ



光氏ハ
光氏ハ
光氏ハ
光氏ハ
光氏ハ
光氏ハ
光氏ハ
光氏ハ
光氏ハ
光氏ハ
光氏ハ

原氏廿八編



柳亭種彦作歌川貞國画

天保十年己亥初春新彫

倅紫田舎源氏
みせ ひとしきのあり
 為年廿八編三十三編と開板お尋ねは多謝と程を希ひ

柳亭種彦作
 歌川貞國画

楠一代記
くすのきいちぢのき
 五冊 烏有山人作
 歌川國芳画

佐野渡怨敵懸橋
このまはりのうらみのけし
 緑亭仙橋作
 全六冊 五雲亭貞秀画

百人一首雅講釋
ひゃくにんいっしゅ
 八冊 山東京山作
 歌川國虎画

櫻風呂花半開
さくらふろの花のこころ
 白雲洞主人作
 全四冊 五雲亭貞秀画

清盛一代記
きよしげいちぢのき
 五冊 烏有山人作
 歌川國芳画

藻塩艸須磨書替
あわじのくさすまのきき
 松下樓麓谷作
 全四冊 五雲亭貞秀画

無筆節用似字盡
むひつせつよう
 各再板

曲亭馬琴作
 歌川國芳画

美艷仙女香
うつくしのまへ
 四十八銅
 南信州坂本氏製

書物錦繪問屋
 團扇地紙

江戸通油町
 鶴屋喜右衛門

